

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	248	国際性に富む人材育成留学事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章5-(4)-ア			
担当部課名	企画部 科学技術振興課 教育庁 県立学校教育課	事業実施 (予定)年度	平成 24 ~ 33 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	国際社会、情報社会に対応した 教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	国際性と個性を涵養し、グローバルに活躍できる人材の育成を図るため、高校生70名をアメリカ、欧州、アジア諸国へ1年間、大学生等30名を海外諸国へ6ヶ月～2年間派遣する。また、アジア太平洋諸国とのネットワーク形成を図るため、ハワイ東西センターへ2名派遣する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】		24年度	24年度(繰越)	25年度	25年度(繰越)	26年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	126,436	—	171,690	—	197,032
		(b) 予算現額	126,436	—	157,007	—	197,032
		(c) 増減額 (b-a)	0	—	▲ 14,683	—	0
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計 (b+d)		126,436	—	157,007	—	197,032
	B. 執行済額		102,026	—	144,976	—	191,168
	うち交付金充当額		81,620	—	115,980	—	152,934
	C. 次年度繰越額		0	—	0	—	0
	執行率 (%) (B/A)		80.7%	—	92.3%	—	97.0%
予算の状況の説明		1. ハワイ東西センター 執行率は94.0%であり、不用額は当初外国為替変動を考慮して計上していた負担金の執行残(負担金250千円)等が生じたことによる。 2. 1以外の事業 平成26年度は概ね当初の計画通りに予算執行できた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	①高校生70名を1年間、アメリカ、欧州、アジア諸国へ派遣。 ②大学生等を含めた社会人30名を、修士課程、1年課程、6ヶ月課程で海外へ派遣。	目標	①高校生65人 ②大学生等15人	①高校生70人 ②大学生等30人	①高校生70人 ②大学生等30人		
		実績	①高校生65人 ②大学生等14人	①高校生70人 ②大学生等25人	①高校生70人 ②大学生等29人		
	③社会人等をハワイ東西センターへ2名派遣	目標	—	—	2名派遣		
実績		—	—	2名派遣			
達成状況説明	・ハワイ東西センターへの派遣については、計画値どおりに派遣することができた。 ・平成26年度の大学生等の派遣は平成25年度派遣(修士課程)8名、平成26年度派遣生22名、高校生70名と合わせて100名を派遣予定であったが、25年度派遣(修士課程)の1名が大学からの受け入れが得られず、派遣を辞退し99名の派遣となった。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値 (23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (33年度)
	①(高校生)海外大学への進学や再度海外への留学を目指したいと考えている生徒の割合85%以上 ②(大学生等)留学での研修成果を今後の活動または現在の職に活かしていきたいと考えている者の割合85%以上	目標	—	—	①高校生70%以上 ②大学生等70%以上	①高校生85%以上 ②大学生等85%以上	①高校生85%以上 ②大学生等85%以上
		実績	—	—	①高校生92% ②大学生等86%	①高校生88% ②大学生等100%	—
	③ハワイ東西センターに派遣された社会人等についてコミュニケーション能力が向上したと実感できた者の割合	目標	—	—	—	50%以上	—
		実績	—	—	—	100%	—
進捗状況説明	・成果目標であるコミュニケーション能力が向上したと実感できた者の割合は、実績が100%となっており達成することができた。 ・年度を跨ぐ事業であり、平成25年度は、平成25年度に派遣され、平成26年度に帰国した派遣生へ帰国後のアンケートを行った。そのアンケートでは、高校生について「再び留学したいと思う」と回答したものが、88%であった。また、大学生等についても振り返りからもほとんどの派遣生が「留学の成果を今後の活動に活かしていきたいと思う」と回答していた。 ・留学を経験した多くの派遣生が留学体験を肯定的に捉えており、今後の進路や活動に大きく影響を与えることが期待される。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生のアンケート調査で「再び留学したいと思う」と回答したものが、88%であったことから評価できる。 ・大学生等の振り返りからも、「留学の成果を今後の活動に活かしていきたいと思う」と回答したものがほとんどである。 ・消費税の増税や為替相場の変動によりプログラム費用等への影響を注視していく必要がある。 ・通常の留学と異なり、審査において高度な英語力(1級程度)が要求され、アジア・太平洋地域の将来のリーダー候補が共同生活により学ぶハワイ東西センター(米国教育研究機関)の合格者を増やすには、このプログラムの魅力を広く県民に周知し、応募者を増やす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページやポスターだけでなく、関心の高い企業(人事部)や大学の国際交流に関連するサークル等へ、直接的に周知広報することにより、応募者の増加を図る。 ・事業効果については、高校生を含め学生が就職するまで一定の期間を要するため、動向調査の徹底が必要となるが、調査方法や時期等については、検討する必要がある。 ・消費税増税や為替の変動を考慮した予算立て。

今後の取り組み方針

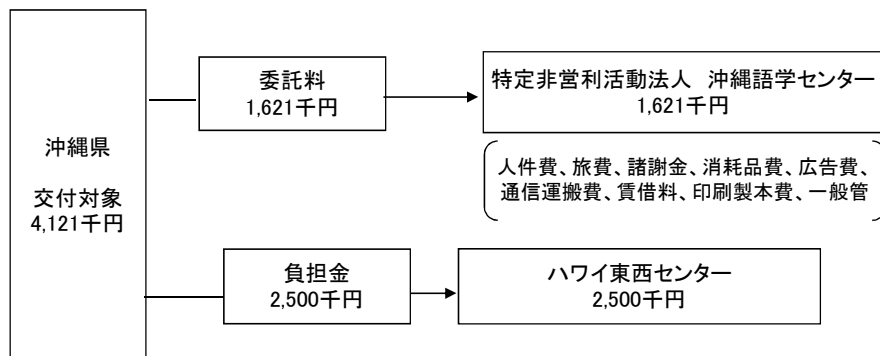
1. ハワイ東西センターについて
 - ・各関係団体へポスター配布や大学での説明会の開催等により、ハワイ東西センターへの留学の魅力を伝えて、広く県民へこの制度の周知を図り、応募者・合格者を増やして目標どおりに派遣者を確保する。
2. 1以外の事業について
 - (1) 高校生、大学生等に共通する事項:
 - ① 研修報告書の作成(全県立高等学校及び全市町村の図書館へ送付)
 - ② 平成27年度予算の消費税増税や為替の変動を考慮した積算
 - (2) 高校生について
 - ① 研修報告会の開催
 - ② 進路先調査等の実施
大学進学先(大学や学部、県内外、国内外等)や就職先の調査を行う。
個人個人で進学就職時期が異なることから、年1回程度アンケートと共に動向調査を実施する。
 - (3) 大学生等について
 - ① 動向調査
ア. 大学生や専門学校生の就職先(県内外、国内外等)調査の実施 イ. 社会人の現状報告
 - ② アンケートの実施(年1回)
ア. 今後、プログラムに参加する派遣生へのアドバイス等 イ. 本プログラムの内容等について(改善点等)

資金の流れ

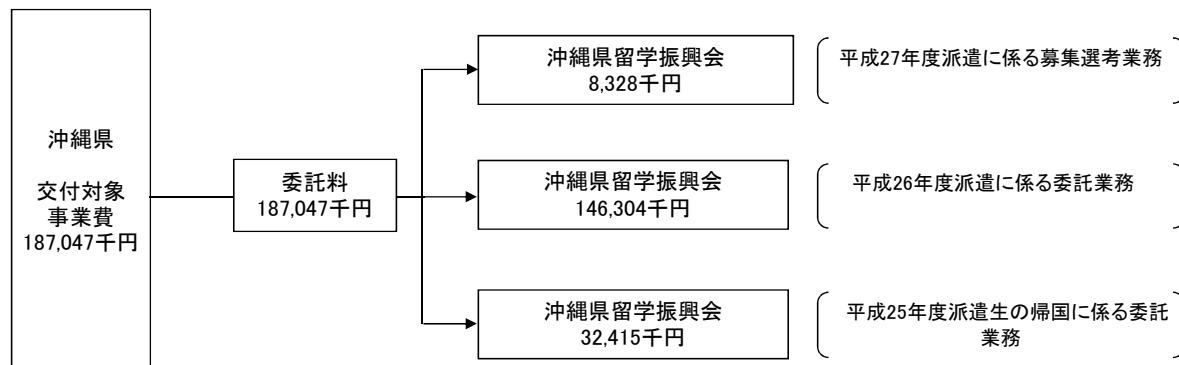
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
191,168	191,168	152,934	38,234	0	0	0

(1)ハワイ東西センターへの派遣事業



(2) (1)以外の留学事業



資金の流れ、費用・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	(ハワイ東西センター) ○委託業者は、公募によるプロポーザル形式により提案内容、業務体制、予算規模などを総合的に勘案して選定しており、妥当であると認められる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○費目、使途については、金額の確定時に検査を行い、適正であると認められた。(上記以外の事業)
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○委託先については、公募によるプロポーザル形式で決定した。平成25年度派遣生の帰国に係る業務、平成26年度派遣生の派遣に係る業務、平成27年度派遣に向けての募集選考業務を行ったが、委託先がそれぞれ業務を円滑かつ確実に遂行した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については、金額の確定時に検査を行い、適正であると認められた。

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

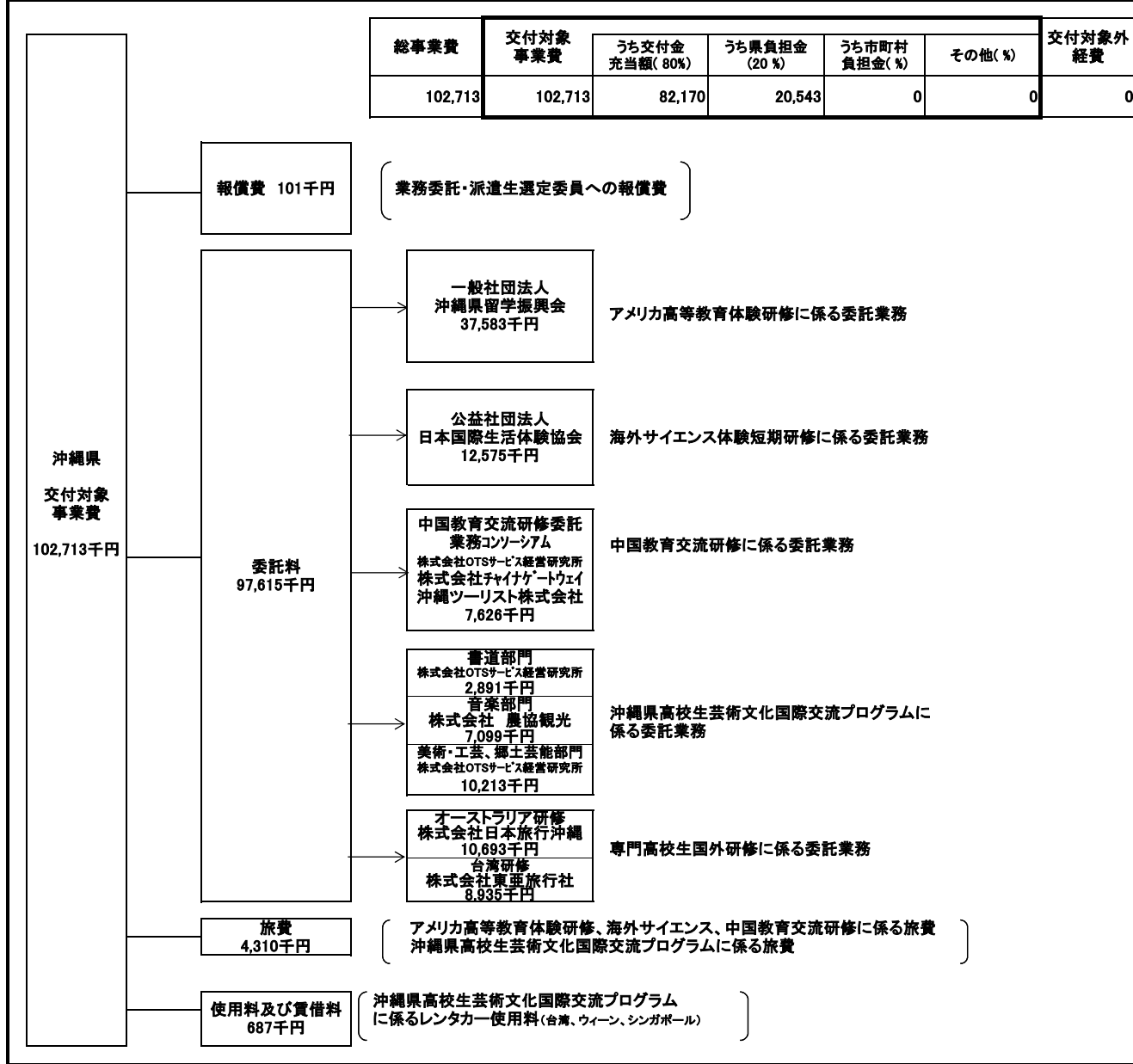
事業番号・事業名	249	グローバル・リーダー育成海外短期研修事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア			
担当部署名	教育庁 県立学校教育課・文化財課	事業実施(予定)年度	平成 24 ~ 33 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進		
事業内容	グローバルな視点を持った世界で主体的に活躍できるリーダーを育成する基礎作りのため、①アメリカ高等教育体験研修、②海外サイエンス体験短期研修、③中国教育交流研修、④沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム、⑤専門高校生国外研修を実施する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】		24年度	24年度(繰越)	25年度	25年度(繰越)	26年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	67,489	—	68,954	—	108,099
		(b) 予算現額	67,489	—	69,749	—	108,099
		(c) 増減額 (b-a)	0	—	0	—	0
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計 (b+d)	67,489	—	68,954	—	108,099
	B. 執行済額		64,510	—	68,775	—	102,713
	うち交付金充当額		51,608	—	55,020	—	82,170
	C. 次年度繰越額		0	—	0	—	0
	執行率 (%) (B/A)		95.6%	—	99.7%	—	95.0%
予算の状況の説明		委託料について、受託者が提示した額が予算を下回ったため、不用額が発生したが、当初計画をしていた事業内容はすべて実施したほか、活動目標の達成状況に鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	高校生の短期研修派遣者数 215人を派遣。 (派遣予定国数:7カ国(アメリカ、中国、カナダ、オーストラリア、シンガポール、オーストリア(ウィーン)、台湾))		目標	155人	175人	215人	
			実績	155人	172人	215人	
			目標				
		実績					
達成状況説明	①アメリカ高等教育体験研修(50名) ②海外サイエンス体験短期研修(25名) ③中国教育交流研修(20名) ④沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム(80名) ⑤専門高校生国外研修(40名) ※「国際性に富む人材育成留学事業」派遣生との合同成果報告会開催(H27. 3. 26 県庁4階講堂)						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(33年度)
	長期留学(国際性に富む人材育成留学事業)への応募者数		目標	—	—	30人	30人
			実績	—	—	22人	30人
			目標				
			実績				
進捗状況説明	短期研修派遣生の平成24、25年度長期留学応募状況実績から長期留学(国際性に富む人材育成留学事業)への応募者数30名としたが、周知や意欲喚起不足、個々の学校生活計画等の影響により、H26実績は22名であったため、未達成である。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・現地研修において自ら進んで研修へ参加する意欲を育むため、コミュニケーションツールとしての英語力を身に付ける外国語講師を活用した語学研修や異文化理解について前年度派遣生、引率教諭による体験談から生活習慣の違い等を学ばせる必要がある。 ・事後研修では、個人、グループの反省を共有し他者の考えを学ぶ機会を設定するとともに、次年度へむけた反省事項として活用する。 ・選考方法については、応募者数増により経費増が考えられるため一次選考を書類選考、二次選考において英文エッセイ、英語面接等の実施とするなど改善の必要がある。 ・短期研修を通して海外で学ぶ意欲を喚起し、長期留学(国際性に富む人材育成留学事業)への応募へと繋げるとともに、研修全体を通して派遣生の進路選択等へ役立つ内容を含める必要がある。 ・ポストステロやイスラム国の問題等、世界各地で治安上の問題がある。 ・派遣効果については長期留学を目指したいと考えている生徒の割合を計る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度の成果目標の30人は周知や意欲喚起不足、個々の学校生活(進路含む)計画等の理由から達成できなかったが、高校卒業後や大学等進学及び大学卒業後の留学も考えられるため、平成27年度からは「長期留学を目指したいと考えている生徒の割合85%以上」とすることとした。

今後の取り組み方針

- ・自ら進んで研修へ参加する意欲を選考時から計るため、グループ活動等から積極性を計る試験内容を取り入れるとともに、現地でのコミュニケーションを考え英語力について選考基準の中での占める割合を再考する。
- ・事前研修においては、引き続き英会話能力向上を図るための外国語講師活用、異文化理解についての研修を実施する。
- ・選考方法については、応募者数増により経費増が考えられるため、委託業者との調整を図る。
- ・長期留学「国際性に富む人材育成留学事業」派遣生と合同で成果報告会を実施するとともに、事前事後研修、本研修を通して長期留学への意欲喚起を図る。
- ・外務省等からの情報など国の動向を注視する。
- ・事後研修時にアンケート調査を実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れの点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流れの点検・評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	